

3 博物館実習

大学及び短期大学における博物館学講座の単位習得の一環として、博物館学を履修する学生を一時的に受け入れ、博物館現場における知識及び技能を修得させることにより、人材の育成を図ることを目的として実施している。開設日時とカリキュラム、および受入先は次のとおり。

(実習担当者：藤崎 綾)

開設日時と内容

8月19日(月)	9:30～10:15	開講あいさつ・オリエンテーション
	10:15～11:30	講座①「美術館と学芸活動」
	11:30～12:00	ギャラリートーク実習①(概論)
	13:00～14:30	講座②「美術館の展示環境・展示手法」
	14:30～15:15	展覧会見学①「所蔵作品展」
	15:15～16:00	展覧会見学②「追悼水木しげる ゲゲゲの人生展」
8月20日(火)	9:30～10:00	館長講話
	10:00～12:00	作品取扱い実習・調書作成①(平面作品)
	13:00～15:00	作品取扱い実習・調書作成②(立体作品)
8月21日(水)	15:00～16:00	展覧会取材(館内取材)
	9:30～12:00	展覧会を紹介する(短評作成・相互批評)
	13:00～14:00	ギャラリートーク実習②(企画—立案)
8月22日(木)	14:00～15:00	ギャラリートーク実習③(実地見学)
	15:00～16:00	ギャラリートーク実習④(企画—立案)
	9:30～12:00	ギャラリートーク実習⑤(企画—集約)
8月23日(金)	13:00～16:00	ギャラリートーク実習⑥(企画—制作)
	9:30～12:00	ギャラリートーク実習⑦(企画—発表準備)
	13:00～14:30	ギャラリートーク実習⑧(発表)
	14:30～15:00	受講生ディスカッション
	15:00～16:00	振り返り

受講生所属大学

神戸女子大学、京都女子大学、広島市立大学、安田女子大学、比治山大学、広島大学、広島女学院大学(申込順、計15名)

ミニ企画展実習

メインカリキュラムの「ギャラリートーク実習」では、所蔵作品展で展示中の作品の中から対象作品を選定し、模擬的なギャラリートークを実施した。受講生は3班に分かれ、グループワークにより、各班で対象者、作品、対象者に合わせたトーク内容、ギャラリートーク全体のテーマを決定。作品を繰り返しよく見ることで発見した見方や感じ方を振り下げることで、作品への理解を深め、鑑賞の楽しみが広がることを体験するとともに、来館者の目線に立ったトーク内容の検討と発表により、学芸業務を体験することを目的とした。各班のテーマ、対象者、作品は次の通り。

1	感情の動き(対象:高校生) 奥田元宋《寂》、善鳩人《薄明》、名井萬亀《一家団欒》、平山郁夫《波斯黄堂旧址》、和高節二《農婦》
2	生きることのかたち(対象:高校生以上) ジャン(ハンス)・アルプ《目覚め》、マックス・エルンスト《博物誌》、サルバドール・ダリ《ヴィーナスの夢》、菅井汲《SOLEIL(太陽)》、土屋幸夫《果てしなき餐食》、名井萬亀《憩い》《ガラス女工》《フットボール》、古沢岩美《死の誕生》
3	嫌なことがあった日(対象:中学生・高校生) 児玉希望《日午(新水墨画十二題)》《涅槃》《踊》、善鳩人《薄明》、寺田政明《生と死の凝視》、浜崎左髪子《青夜》、行近壯人《月明》